

小学校の統廃合もいいが、センターは大丈夫か・・・と聞かれ

何の事と聞き返すと、「地震でコケないか？」との事

棟名	あいりん労働福祉センター
耐震性能	C
建設年度	昭和43年度
耐震化の手法	未定
H 23年度予定	
着手予定時期 (年度)	H24年度～H26年度
備考	H23年度耐震化の手法決定予定
避難所	

- 耐震性能
- A：耐震性能あり(耐震構造指標 0.6以上)
 - B：耐震性能が低い(耐震構造指標 0.6未満、0.3以上)
 - C：耐震性能が低い(耐震構造指標 0.3未満)
 - D：現行の耐震基準を満足していないと考えられる木造・簡易耐火住宅等

・I s 値が大きくなると、被災度は小さくなる傾向が見られます。

・Is値が 0.6 を上回れば被害は、概ね小破以下となっています。

・Is値が 0.4 から 0.6 の建物では多くの建物に中破以上の被害が生じています。

・Is値が 0.4 以下の建物の多くは倒壊または大破しています。

以上の情報からすれば、センターは、大きな地震が起これば、倒壊又は大破する可能性が大きい建物であるといえます。多分、医療センターの棟も同程度と・・・。

そこで、調べて見ると「コケそう」、地震の大きさにもよるけれど・・・

前回、夜間学校ニュースは、釜ヶ崎周辺の三つの小学校が廃校になり、新しく今宮中学校内に小学校が建てられるという話でした。

それを読んだ人が、「廃校に反対運動でもするのか」と聞いてきました。そういうつもりはさらさら無く、空き家になる小学校の跡地をみんなで作るようになればいいなと思っ

「ところで、センターは大丈夫か、地震になったら、コケないか」

「と答えたところ、突然、話題が変わり

「ところで、センターは大丈夫か、地震になったら、コケないか」

「そりや、大きな地震が来たらコケルでしょう」というと、「ホンマか、よく調べて知らせて欲しい」ということでした。

調べたところ、大阪府の認識では、センターの耐震性能はCランクであるということのようです。大きな地震が来たら、コケる可能性が高い。では、どうするのかについては、「検討中」ということのことです。

釜ヶ崎は、大きく変わらざるを得ないと・・・。

10年一昔、人も替われば状況も変わる。では、なぜ、特掃は今も・・・

ちよっと気になることがあって、昔の現場通信を見てみました。

2001年10月5日第20号の見出しは、「特掃詰所で昼飯前の待機中、仲間が死んだ」でした。

亡くなった森田さんは64歳7ヶ月でした。朝から調子が悪かったらしく、二度ほど戻っていたということです。それでも頑張つて朝のコースをこなし、詰め所に戻り、昼飯前に両手を枕に机にうつぶして休憩していた、ように見えた。弁当を配りはじめ、「メシやで」と声をかけてはじめて、おかしいことに気がつき、救急車を呼びました。

救急隊員は、見るなり「もういっとるやないか、なんではようよばんのや」と怒り出しました。それでも、懸命に蘇生させようと努力しながら、病院に運んでくれましたが、間に合いませんでした。

森田さんは、旭町の公園で1年半から2年ほど生活し、夜間宿所ができてからは、夜間宿所を利用していた人でした。第24号には、萩之茶屋小学校で実施される「市民健康診査」を利用するように呼びかけています。

釜ヶ崎支援機構を連絡先にする事で、受診できることを

かくにん 無料検査の結果、有料の検査が必要となった人については、確認し、無料検査の結果、有料の検査が必要となった人については、釜ヶ崎支援機構が負担することで、野宿している人でも検診を受けられるようになりました。

2003年3月17日第47号は、地域外就労で泉大津の現場に行つた谷口さんが、具合が悪くなり、救急車で泉大津の病院に運ばれたが、行きつけの病院で精密検査が必要、今日中に診察を受けるように言われ、その病院では入院を認められず、大阪まで戻つて杏林病院へいったがすでに重篤、4日後に死亡したことの報告です。

泉大津の病院へは、入院させなかつた事の抗議、野宿生活者の置かれていた状況を伝えたにもかかわらず、通勤途上の人の救急搬送と同じように考え、症状からきつとかかりつけの医者があるはずと思ひ込んで対応したことの無理解が死に至らした責任を追及しました。病院側は、野宿生活者の生活について無理解であつた非を認めましたが、釜ヶ崎支援機構にも注文を付けました。人に働いてもらうのであれば、働いてもらう人の健康管理ぐらいは、注意を払って行くべきではないか、それが社会的責任では・・・と。

「健康管理は自己責任」、「倒れたら救急車を呼べばいい」ではすまないこととして、特掃の健康管理はある。10年経つてそれが不要である状況に変わっているとすれば、特掃も不要であるはず・・・と。